

1 事業名 青少年教育指導者ミーティング

2 必要性

独立行政法人国立青少年教育振興機構の中期計画（平成 18 年 4 月）に「青少年をめぐる諸課題への円滑な対応が可能となるよう、青少年教育に関する施設及び団体間の連絡・協力を促進する」「青少年教育施設・団体相互間の連絡・協力の促進を図るため、青少年教育施設の連絡会の開催・情報交換等を行う」とある。青少年教育関係機関・団体等の全国的なネットワークづくりや地域のネットワークづくりを推進する方策が示されている。

本事業は、担当施設で取り組んでいる体験活動を参加者全員で体験することを通して各施設のプログラム開発・実践に活かしたり、当施設が先導的モデル的的事业等を実施した成果を、公立青少年教育施設・青少年団体等に普及させたりすることを主たる目的とした事業であり、国立青少年教育振興機構の施設として積極的に取り組むべき事業である。

3 趣 旨

各地で青少年教育施設・青少年団体を対象とした協議会が年に 1~2 度開催されているが、多くの場合、所長・課長等の管理職が中心となった協議の場で終わっている。その中で各施設が実施している企画事業の成果報告等については、モデル事業の事例発表・質疑応答等のみとなっていることが多いのが現状であり、実際の指導に活かしにくい。そこで本事業は、青少年教育施設・青少年教育団体に所属し事業を企画・運営している担当者が集まり、事業に関する情報・ノウハウなどの情報交換を行う中でお互いの事業について理解し、企画・運営に関する学びを深めることをねらいとして行う。そして、当施設の事業成果を確実に広報・普及させることをねらいとしている。

4 協 力

鳥取県教育委員会家庭・地域教育課、島根県教育庁社会教育課、島根大学教育学部附属教育支援センター、鳥取県立船上山少年自然の家、鳥取県立大山青年の家、島根県立青少年の家(サン・レイク)、島根県立少年自然の家

5 期 日

第 1 回 平成 22 年 6 月 29 日（火）～6 月 30 日（水）

（会場：鳥取県立船上山少年自然の家）

第 2 回 平成 23 年 2 月 24 日（木）～2 月 25 日（金）

（会場：国立三瓶青少年交流の家）



登山研修をする参加者

6 参加者

- (1)募集対象・人数 山陰地方の公立青少年教育施設・青少年教育団体の事業実施担当者
各施設のボランティア



カヌー研修をする参加者

(2)参加人数

第1回 13名（鳥根県5名 鳥取県8名）

第2回 10名（鳥根県7名 鳥取県3名）

(3)参加者分析

第1回 繁忙期にもかかわらず、山陰地方の全ての青少年施設から13名の職員が参加した。また、鳥根大学教育学部附属教育支援センターからも2名の参加があり、ボランティアとの関わり等、今後の幅広い連携に期待が持てた。

第2回 山陰地域の全ての青少年施設から7名の職員と3名のボランティアの計10名が参加した。各施設を通じてボランティアの参加を呼びかけたところ、国立三瓶青少年交流の家のボランティア2名と鳥根県立少年自然の家のボランティアの1名、計3名のボランティアが参加した。

7 講師

研修指導員 関 弘宜 氏（第2回青少年教育指導者ミーティング 歩くスキー体験）

研修指導員 宮脇 進 氏（第2回青少年教育指導者ミーティング 歩くスキー体験）

8 参加経費

第1回 3,000円

第2回 1,800円



野外炊飯の研修をする参加者

9 事業の内容

(1)事業の特色

本事業は参加対象を各施設・団体で実際に事業を企画運営している担当者としていることで、一般的に行われている協議会にはない体験を取り入れた広報・普及ができる場を設定していることが特徴である。本事業は年度当初と年度末の2回実施することとした。

第1回目の開催場所については平成22年度より鳥根県立船上山少年自然の家 鳥根県立少年自然の家 鳥根県立大山青年の家 鳥根県立青少年の家（サン・レイク）の順で年度毎の持ち回りとし、各施設のプログラムを直接体験することにより施設のプログラムや会場施設の取組みについての理解を深め、各施設の指導に活かせるよう場の設定をした。また、各施設・団体が平成22年度実施するそれぞれの事業に関する連絡・相談の場も設定し、それぞれの相互理解を図った。

第2回目については、平成22年度実施した事業の成果報告をし、相互に評価をすることで平成23年度の事業企画につなげるものとした。また、各施設のボランティアが参加することにより、ボランティアとの連携の在り方を協議した。さらには、事業の担当者同士が集まり、様々な想いを共有する場を設定することで、お互いに「青少年教育に携わっている仲間」という意識を高め、ワーキングネット構築の一助とすると同時に、



船上山 登山研修

国立青少年教育施設である当施設のプログラムや取組みについてを確実に広報し、普及できる場を作るものである。

(2)企画のポイント

- ・ 第1回については、会場施設である鳥取県船上山少年自然の家の活動プログラム（カヌー、いかだ・フローティングローブ体験、ナンカレー・鶏の丸焼き料理、船上山登山）が体験できるようにした。
- ・ 第2回については、会場施設である当施設の冬の活動プログラム（雪像づくり、歩くスキー体験）が体験できるようにした。
- ・ 各施設の事業成果等を発表しあえる報告・協議の時間を取るようにした。

(3)広報のポイント

山陰地方の5施設すべてから参加が得られるように担当者間で連絡を取り、本事業の趣旨を説明して参加を促した。さらに第2回では、各施設のボランティア担当者を通して、各施設ボランティアの参加も促した。

(4)日 程 表

第1回 平成22年6月29日(火)～6月30日(水)[実施日程：雨によりプログラム と を入れ替え]

6/ 29 (火)	11:00	11:30	12:00	13:00	16:00	17:00	18:00	22:00
	受付	【出会いのつどい】 ・OR ・アイス ブレイク	昼食	【プログラム体験 ダム湖活動】 (カヌー、イカダ、 フローティングローブ)	シャワー・休憩	【ミーティング】 ・船上山の取り組み 紹介 ・各施設の取り組み と課題	【プログラム体験 野外炊飯・情報交換会】 (鳥の丸焼き、ナンカレー)	入就 浴寝

6/ 30 (水)	7:00	7:30	8:30	9:00	12:00	12:30	13:30	14:00
	起床・掃除	朝食	着替え・移動	【プログラム体験 ・船上山登山】 (滝めぐりコース) 千丈のぞき	着替え シャワー	昼食	【別れのつどい】 ・ふりかえり ・わかちあい ・次回の展望	解散

第2回 平成23年2月24日(木)～2月25日(金)

2/ 24 (木)	13:00	13:30	14:00	16:00	18:00	21:00	23:00
	受付	【オープニング】 ・ねらいの共有 ・アイスブレイク ・自己紹介	【プログラ ム体験】 雪像づくり	【報告】 ・各施設の事業の成 果と課題 ・ボランティア活用	夕食	【ミーティング】 ・各施設の現状・課 題について ・情報交換会	入就 浴寝

	6:30	9:00	12:00	13:00	14:00
2/ 25 (金)	起つ朝 ど 床い食	【プログラム体験】 歩くスキー体験	昼 食	【まとめ】 ふりかえり わかちあい 来年度の展望	解 散

(5)運営のポイント

天候が不安定だったので、主催者側と会場施設側とでよく協議をし、参加者の意向もよく聞いたうえで、柔軟に対応した。

第2回は、協議の場で意見を言いやすいように、最初にアイスブレイクやプログラム体験「雪像づくり」をおこない、参加者同士のコミュニケーションを図った。

(6)安全管理のポイント

第1回については、予定していたカヌーや登山を雨が降る中で安全に実施できるか、鳥取県立船上山少年自然の家の職員と入念な打ち合わせを行なった。プログラムの実施時間帯の変更、登山プログラムのコースを短く、滑りにくいコースに変更をするなど、安全面に配慮してプログラム内容を一部変更した。

第2回については、歩くスキーの実施において、参加者のレベルや雪の状態にあわせ安全に実施できるよう当施設の歩くスキーの研修指導員と入念な打ち合わせを行った。またグループごとに無線を携帯し、常に連絡を取り合えることで、緊急時の対応を迅速に取り合える体制を作った。

(7)アンケートの満足度・主な記述

第1回（アンケート回答者13名中）

満足10名（77%） やや満足3名（23%） やや不満0名（0%）

- ・ 体験活動のプログラムは参考になる。
- ・ 天候がやや残念でしたが、とてもよかったです。
- ・ 天気を見て、日程を変更したのは正解だった。
- ・ 情報交換会の時間が短かったので、考えが深まらなかった。
- ・ 原則として 月 日というように、開催日を固定しておく
と、各所で受け入れ調整ができ、参加者をもっと増やすことができるのではないだろうか。
- ・ 体験したいプログラムを選択制にするとか、他の受け入れ団体と混じって参加、あるいは一緒に担当していただくなど、さらに一歩踏み込んだ青少年教育指導者ミーティングにしてはどうか。



当施設 新プログラムの雪像づくり

第2回（アンケート回答者10名中）

満足8名（80%） やや満足1名（10%） やや不満1名（10%）

- ・ 終始なごやかな雰囲気、委縮せずに活動することができました。
- ・ 雪像づくりがよかったです。取り入れたいです。
- ・ 全体の意図がやや不明、協議会や情報交換の時間が少ないと思います。
- ・ 各団体のボランティアの方も参加してもらえると、さらにその団体で活動されていることが把握で

きるのではないかと思います。

- ・ 施設ごとの悩み、ボランティアの思いを直に聞くことができました。学生ボランティアを介して、鳥根の施設、鳥取の施設がつながっていることがよくわかりました。そして、それぞれの立場から意見交換できたことはとても有意義でしたし、来年度の取り組みへの良いつながりができました。
- ・ 課題をもって集まっているので、ある程度その「解決」に向けた具体的な話し合いをブレインストーミング法などでやってみたらどうでしょうか。

10 成果と今後の課題

<成果>

- ・ 平成 22 年度より本事業第 1 回の会場を持ち回りで行うこととなった初年度が、山陰地方の全青少年教育施設からの参加で開催することができた。
- ・ 鳥取県立船上山少年自然の家の活動プログラムであるカヌー・いかだ・フォローティングローブ体験、ナンカレー・鶏の丸焼き料理、船上山登山を参加者全員で体験することができた。
- ・ 第 1 回に実施した登山や第 2 回に実施した歩くスキーでは、多くの施設がプログラムに取り入れていることもあり、自分の施設の指導を安全管理や利用者の声かけなどの面で見直すきっかけとなった。
- ・ 一緒にプログラム体験をしながら、各施設の企画事業の内容や悩みなど話をすることができ、青少年教育に携わっている仲間として意識が高まり、連携を深めることができた。
- ・ 鳥根大学教育学部附属教育支援センターの准教授の参加もあり、大学との連携についての意見も出て、様々な観点の話し合いとなった。

<課題>

- ・ 主催施設と会場施設が異なる場合は、費用負担や会場施設の利用の仕方及び、体験プログラムの指導方法等について、当施設と会場施設との役割分担を事前により明確にしておき、その上で円滑な運営を行うために、細部の連絡調節を密にして意思疎通を図っていく必要がある。
- ・ 事前に参加者に本事業の協議会でどのような議題で話し合いたいアンケートを取り、テーマを絞ってお互いの取組みをもっと共有できるような配慮をしていきたい。

11 普及計画・普及実績

- ・ 山陰地方の青少年教育施設の指導系職員に対し、直接当施設の活動プログラムやボランティアの取り組み等を広報することができた。
- ・ 事業実施後、事業内容及び成果について当施設ホームページで紹介する。また、企画事業報告書を青少年教育施設、青少年教育関係機関等に配布することで、成果の報告に併せ、その普及に努める。

(担当 長井 理)



各施設の現状と課題を話し合う
参加者



歩くスキー研修を行う参加者